

校名：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校

所在地：〒921-8105 石川県金沢市平和町 1-1-15
電話番号：076-226-2111

記載日：平成28年 5月13日 記載者：的場 茂樹 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

学校の敷地には、自然がいっぱいで児童がのびのびと活動している。学校前の「ふれあい広場」には柏の木が茂っている。柏の葉が冬の寒さに耐え、春になり、新芽が芽吹くまでその枯れ葉が落ちないことから、良き伝統を受け継ぐという本校のシンボルになっている。校章はその柏の葉がモチーフとなっている。

本校の教育方針は

- ①豊かな人間を醸成する (徳)
- ②自ら学ぶ生涯学習の基盤をつくる (智)
- ③たくましく生きる心や体を育てる (体)

智・徳・体のバランスの取れた児童の育成を目指している。

「古き良き伝統的な教育」と「先進的な教育」の融合。それが本校の特色である。「古き良き伝統的な教育」…「書くこと」「話すこと」を中心に言葉（日本語）を大切にしている。「先進的な教育」…PCやタブレット、電子黒板を従来の教育と組み合わせたICT教育を積極的に取り入れている。



写真1 ふれあい広場

貴校の卒業生の活躍状況について：

① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法

特に追跡調査は実施していない。本校には「嚶鳴会」という卒業生の会があり、小学校卒業と同時に「嚶鳴会」に所属する。

② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）

「嚶鳴会」は、5年に1度、総会が開かれることになっている。その際に全会員に案内を送付している。そのためにある程度の情報は分かっている。「嚶鳴会」が業者に卒業生の情報管理を委託しており、「嚶鳴会」がその情報を持っている。

③ 状況を具体的にお書きください

本校の卒業生には地元の名士が多い。また本校の保護者の中にも多数の卒業生がいて学校の教育活動に多大なご協力をいただいている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法

本校では特に追跡調査を実施はしていない。

② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか

毎年、元教職員に対して研究発表会の案内（1次案内・2次案内）を送付しているので、学校がその情報を管理している。

③ 状況を具体的にお書きください

公立に戻った元本校の教職員の多くが教育委員会や管理職等の公立学校の要職に就いている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

【研究について】

本校の学校運営の柱のひとつは研究である。取り組みを紹介する上で研究は欠かすことはできない。今年度の研究を以下に要約して紹介する。

研究主題：考える子を育む（3年次）～学ぶ楽しさを味わう授業～

本研究の目的は、未知なる状況を切り拓いていくために必要な学ぶ力を「考える」という行為を通して追究していくことである。そこで「考える子を育む」授業を具現化していく過程を通して、「これからの学びのあり方」について、私たち教師自身が考え、認識を深めていくこととした。

本校では、2年間の研究から「考える子」を次のように定義した。

○多角的な視点からさまざまな関係の中で対象をとらえ直し、見えていないことまでも推論する子

○自分の考えを他者と分かち合い、深めたり広げたりする子

○学んだことや学び方を自覚し、さまざまな場で用いる子

子どもが「問い」や「こだわり」をもって「学ぶ楽しさ」を味わうことを積み重ねることで、「考える」経験が繰り返される。その過程で子どもの「問い」や「こだわり」は、大きく強くなり、そこから生まれる「学ぶ楽しさ」も広く深いものになると考える。(図1)そのため研究では、子どもの「学ぶ楽しさ」を味わう姿を具体的に「見取る」ことを繰り返しながら、「学ぶ楽しさ」と「考える」こととの関連を明らかにしていく。目の前の子どもの学ぶ姿を見取り、見取りから得た子どもの学びや、教師の働きかけに対する気づきを次の学びへとつなげていくことで、子どもの姿に即した「学ぶ楽しさを味わう授業」をつくっていきたい。

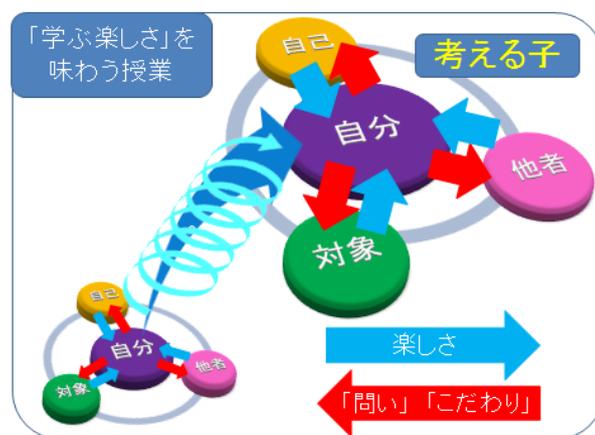


図1 本校の研究のイメージ図

【学校研究を支える組織について】

本校の研究を支えていくために本校では以下の組織を編成している。

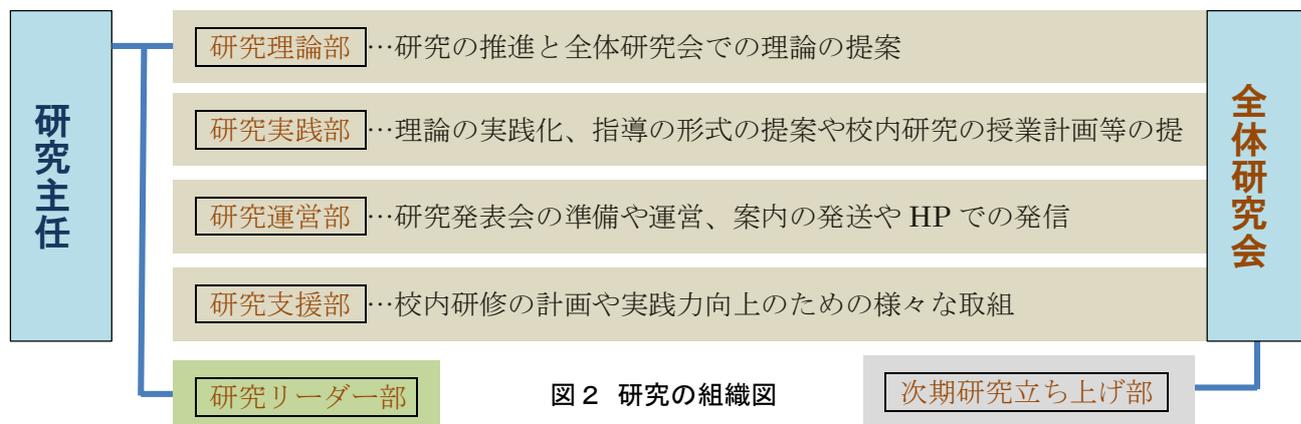


図2 研究の組織図

基本的に研究4部会（理論部・実践部・運営部・支援部）で研究を実践している。各部がそれぞれの役割を実践することで研究を推進している。研究リーダー部は各部のリーダーが集まり、それぞれの部会の仕事の調整や方針を決めている。今年度は研究の最終年度に当たるので次期研究の立ち上げ部も組織し、1年かけて来年度の研究のプランを練っている。

【言葉（日本語）を大切にした伝統的な教育】

本校は、言葉（日本語）を大切にした伝統的な教育が脈々と受け継がれている。

その一つが昭和22年から続いている日記「あゆみ」である。「あゆみ」は3年生以上の児童が毎日欠かさず書いている学習の記録と日記である。平日は、学校での学習の要点を上段に記載し、下段にはその日の心に残った出来事を記載する。それに対して担任が毎日、全員に返事を書いている。そのような児童と担任の言葉のキャッチボールが1年間続けられる。それによって担任はクラスの児童を理解し、また様々な指導も行われる。あゆみを継続することで児童は書く力を伸ばし、安定した学校生活を送るための心の支えとなっている。ちなみに1年生は「あのね」、2年生は「あしあと」を自分の好きな時に書いている。



写真2 あゆみの中身

また、本校には明治22年から続いている「藤棚お伽会」がある。これは物語や詩の朗読を毎年5月の藤の花の咲く時期に藤棚の下でクラス毎に行うものである。中には創作童話や歌も交えながら発表するクラスもある。他のクラスやたくさんの保護者が見守る中、児童は言葉に気持ちを込めて発表するので授業や様々な場面でその経験が生きる。



写真3 藤棚お伽会の発表

さらに昭和26年創刊の文集「ふじだな」も本校の伝統である。今年度で第110号の発刊の予定である。これは学年ごとにテーマを決めて全員が書くものである。言葉をひとつひとつ選びながら美しい日本語を綴る伝統はこれからも脈々と受け継がれていくことであろう。



写真4 藤棚の下で参観



写真5 情報機器を活用した授業

【先進的な教育】

本校ではPCやタブレット、電子黒板を従来の教育と組み合わせたICT教育を積極的に取り入れている。各学年には1~2台の電子黒板と1人1台のタブレットを活用して学習に生かしている。児童は鉛筆を使用する感覚で自在にタブレット等を活用している。また、体育の時間にも電子黒板やタブレットを活用し、自分の動きを確認したり、見本の動き

を参考にしたりしながら授業を進めている。

今後は、本校発信の様々な学習支援Webシステムの開発し、全国どこからでも手軽に活用できるように現在開発と環境整備を進めているところである。完成したのから順次公開していきたい。



写真6 体育でのICT授業の1コマ

【弦楽合奏部】

本校には小学校としては、全国的にも珍しい弦楽合奏部がある。昭和5年に作られた「バイオリンバント」が現在の弦楽合奏部である。4年生以上の希望者で組織され、全校朝礼で校歌を演奏したり、入学式や卒業式でも演奏をしたりしている。また定期演奏会や近くの施設に慰問演奏など幅広く活躍している。



写真7 弦楽合奏部の定期演奏会

【智徳体を支えるふぞく人間塾】

本校では智徳体のバランスのとれた児童の育成を支える活動として「ふぞく人間塾」がある。これは、朝休みや長休み、昼休みに様々な「智徳体」に関する活動にチャレンジする取り組みである。例を挙げると「智」に関する活動は、「春の七草」「論語」などがある。「徳」に関する活動



★「おぼえていたためになる」「できたらすごい」「今はわからなくても将来役立つ」そんなものを集めました。これに合格すれば人間的に成長することまちがいなし！自分のペースで一歩一歩、半年、1年かけて達成（たっせい）してください。
★「おぼえた！」「できた！」という人は、長休みか昼休みに校長室まで来て下さい。

級	内 容	達成した日	印
10級	春と秋の七草	/	
9級	いろは歌	/	
達成（たっせい）カード			
8級	12の月と干支（えと） 龍月 龍月 龍月	/	
7級	寿限無（じゅげむ）	/	
6級	あいさつ（自分から・大きな声で・目礼）	/	
達成（たっせい）カード			
5級	あやとり（二人あやとり・4だんばしご）	/	
4級	学校にある草花（くさばな）	/	
3級	鉄棒の連続技（てつぼうのれんぞくわざ）	/	
2級	雨ニモ負ケズ	/	
達成（たっせい）カード			
1級	お手伝い（家のお手伝いを毎日、1か月続けます）	/	
初段	論語（ろんご）10編 温故知新	/	
2段	なわとび（二重とび 10回×学年 3年なら30回）	/	
3段	附属小学校クイズ	/	
4段	さかだち6秒間（男子）4秒間（女子）	/	
5段	俳句（はいく）づくり 10句	/	
名人	百人一首（秋の田のかりほの庵の苫をあらみ…）	/	
表彰状（ひょうしょうじょう）			

写真8 ふぞく人間塾カード

は「あいさつ」「お手伝い」がある。「体」に関する活動は「なわとび運動」「鉄棒の連続技」がある。覚えたり、できるようになったりしたら休み時間に校長室に来て、副校長先生の前で発表をする。出来れば合格。カードに判をもらい達成カードを受け取る。そして校長室前のホワイトボードのにんげん塾達成一覧表に名前が貼り出される。

児童はそれぞれ楽しみながら、覚えたり、出来るようになったりことに取り組む。たくさんチャレンジに来た時には、上級生が先生となって下級生の指導にあたる。校長室が交流の場となり人間育成の場となる。今年度はさらにバージョンアップした形で児童の人間力をさらに付けさせたい。



写真9 ふぞく人間塾達成一覧表

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

今から22年前に金沢市の中心部から現在の場所に移転してきた。地域には温かく受け入れしていただいているが、公立の小学校も近くにあり、地域にとっては公立学校に比べると馴染みの少ない学校と言える。いろいろな学習を通して地域の協力をいただいたり、近くの市民病院へ本校の弦楽合奏部が慰問のための演奏に出向いたりするなど、地域に馴染むための様々な活動を繰り返している。今後も地域の学習や地域の人材を生かした学習をさらに展開していく予定である。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

学校は、地域文化の発信の中心であり、それが地域への貢献となる。子ども達が集う学校にはそのパワーがある。それを生かした学校運営がこれから益々必要となってくる。本校の存在意義は、その地域文化の発信の範となることである。そのためには以下の2点を本校で実践している。

①地域研究への貢献

本校の教職員は各教科の市や県の地域レベルでの学校研究に深く関わっている。教科によっては事務局として本校に置いていたり、授業会場として本校のクラスで授業が行われたりすることも多い。また、多くの本校職員が運営委員や実行委員等、様々な形で大会運営に関わっている。それにより、公立の学校に本校の研究について周知する機会にもなっている。

②大学との連携

本校では、各教科が普段から大学の先生と密に連絡を取りながら研究を推進している。大学の先生方には頻りに本校に足を運んでいただき、授業を参観いただいたり、研究理論や実践のアドバイスをいただいたりして研究を推進している。また、本校が大学の先生方からの求めに応じて、様々な研究の協力やサポートを行っている。それは、研究のためのアンケート、実験的な事例のデータの提供等である。提供したデータ等は本校にも還元され、教育活動に生かしている。

教育実習では、多くの学生の受け入れをしている。また、今年から始まる教職大学院の実習では、教職大学院の実習生、本校の双方が有益なものになるように進めているところである。